

2006年2月7日

## 太陽誘電:米国電源事業をタムラ製作所に売却 拠点再編の一環として「選択と集中」により経営効率を改善

太陽誘電(代表取締役社長:神崎 芳郎)では、『拠点の新設・統廃合・役割の見直しを着実に進めグループとしての経営効率を高める』という考えに基づいて、拠点の再編を進めてまいりました。近年では、生産販売拠点であったシンガポール子会社の機能見直しを行い、アキシャルリード型インダクタの製造を中国(天津市)の生産拠点に、フェライトコアの製造を日本(群馬県吾妻郡中之条町)の生産拠点にそれぞれ移管・集約して、シンガポール子会社は販売機能に特化しました。また、韓国(慶尚南道馬山市)の拠点においては、需要が急増している液晶テレビ向けバックライト用インバータモジュール事業強化のため、設計人員拡充や日本からの技術要員派遣など回路設計機能強化に向けた取り組みを行いました。

今回、このような施策の一環として、米国における電源生産事業の売却に関して、株式会社タムラ製作所(代表取締役社長:田村 直樹/以下、タムラ製作所)と合意に達しました。

太陽誘電の米国における電源事業は、1988年に米国の電源メーカーであったXENTEK社を買収することで始まり、XENTEK社の持つ電源技術をもとに、太陽誘電の持つハイブリットIC技術を組み合わせ、産業機器用電源の製造を主軸に事業を進めてまいりました。1988年当時は、円高と好景気を背景に、事業拡大と海外展開が行われておりましたが、太陽誘電を取り巻く経営環境も大きく変わり、グループの経営方針や、経営資源の配分に対する考え方にも変化が生じています。このような観点から、電源事業を見直した結果、現状のモジュール事業との相乗効果が見込みにくくなってきていると判断し、経営効率を高めるという基本方針に基づいて、米国の電源生産事業の売却を意思決定しました。

今回の事業売却により、太陽誘電グループ内における「選択と集中」をさらに進め、モジュール事業については、主力分野である液晶テレビ向けバックライト用インバータモジュールと高周波無線モジュールを中心に、より一層注力していきます。

今回締結された合意内容は以下のとおりです。

<事業譲渡の合意内容>

1.TAIYO YUDEN(U.S.A.)INC.がTAMURA CORPORATION OF AMERICA(タムラ製作所の米国販売会社、100%子会社)に電源事業を有償で譲渡する。

2.譲渡日 2006年2月28日

3.譲渡内容

TAIYO YUDEN(U.S.A.)INC.が保有する電源事業の営業権及び資産一式(生産設備、測定器、材料、仕掛、商品、TAIYO YUDEN DE MEXICO S.A. DE C.V.株式)

4.TAIYO YUDEN(U.S.A.)INC.で電源事業に従事する従業員二十名余は会社都合事由で退職する。その際に特別退職金が支払われる。

<事業譲渡の対象となる拠点概要>

名 称 : TAIYO YUDEN DE MEXICO S.A. DE C.V.

設 立 : 1992年5月

所 在 地 : Avenida Pacifico 14633 Parque Industrial Pacifico Tijuana B.C. 22610 MEXICO

資 本 金 : 146万メキシコペソ

代 表 者 : 櫻井博行 (さくらい ひろゆき)

事業内容 : 電源の製造